



新松田駅前のコスモス館

新たな買い物弱者対策を



質問者
齋藤 永 議員

平成22年7月にスーパーが撤退し、町民は買い物に不便を感じています。買い物弱者への対策として、地産地消の会が新松田駅前のコスモス館で行う農産物等の販売や、商工振興会が作成した宅配サービスのチラシなどについて、町は支援をしています。但し、抜本的な解決には至っておりません。

一方、隣町に新たなショッピングモールが2ヶ所出来るなどしており、町内へスーパーを誘致することは、ほとんど不可能だと考えます。そこで、次のことを伺います。

- ① コスモス館及び宅配チラシの利用件数・売上金額などの実績は。
- ② 先進事例として、光回線を利用した買い物弱者対策があると聞いておりますが、そのようなものを取り入れるお考えは。

A 買い物弱者にITの光回答（町長）



質問者
石内 浩 議員

厳しくなる環境下での町の浮上策は

消費税の値上げ、過大な赤字国債の償還計画、急激な少子高齢化に伴う年金を含めた福利厚生経費の増大など、国は積年のツケを国民に押しつけてようとしている。

しかし、この悪環境下であっても、被災地をはじめ元気に立ち向かっている自治体も又多い。特に次の点につき、その現状と将来について伺いたい。

① コスモス館の売上は、22年度約1170万円、23年度1400万円、24年度については1800万円を見込んでいますが、宅配チラシの実績は上がっていない。

② 全国的に光回線を活用した買い物システム開発が進んでいる。近隣の市町では、テレビ電話やタブレット端末を利用して買い物をするシステムを実験事業としてしている。高齢者や障害者・独居世帯に代わって買い物注文をするホームヘルパーさん達も、買い物時間が短縮され、他の介護の仕事に有効利用できる。生活援助の質を高める取り組みになる。

いずれにしても、商店街の活性化を含め、商工振興会から要請があれば、町は積極的な支援をしていく。

- ① 住宅取得促進奨励金制度」の利用は、昨年35件のうち41名が町へ転入し、その平均年齢は27.9歳であった。率直な意見を取り入れるため、転入者との町政懇話会を予定している。
- ② 町民一人ひとりが、「地域の課題」や「地

A みんなが誇れる町づくり回答（町長）

- ① 生産年齢人口の年代別増加策は
- ② 町民協働の町づくり
- ③ 観光立町としての新しい方策は



新築住宅には交付金を支給

地域の将来像」についての考えを形成するため支援を行う。このために、自治会長の先進地域への視察をする。また、町の施策には若い人や女性の参画を促進する。

③ 四季に応じたイベントによる活性化、また松田と寄の連携を図るなかで、特徴を生かし商店街との絆を強める。

さらに、交通機関・旅行会社との連携や広域化を図る。